

## 2022 年度第 4 回理事会議事録

期 日：2023 年 3 月 7 日（火）19 時～20 時 30 分 web 会議

出席者：黒田 輝、内田幸司、大野誠一郎、岡本和也、笠井治昌、菊地克彦、熊代正行、  
鈴木雄一、高橋順士、高橋光幸、寺田理希、土井 司、沼野智一、山崎 良、  
吉丸大輔、錦 成郎

委 任：江田哲男

### [議事]

#### 1. 磁気共鳴専門技術者の更新について

##### (1) 更新者の申請状況

	試験合格者	申請資格者	更新者	(上級更新)	更新延長	未申請	今回更新率	認定者比率	総失効者
第 3 回	50	46	39	7	2	5	84.8%	82.0%	9
第 8 回	54	51	46	6	4	1	90.2%	92.5%	4
第 13 回	97	97	93	7	1	3	95.9%	96.9%	3

##### (2) 更新審査に係る提案

【所属学会なし】では更新できないことを再確認した。

##### (3) 審議結果

今回申請のあった更新認定者に対して更新料の支払い通知を出す。

磁気共鳴専門技術者更新証は 3 月中に作成し、即日を送付する。

#### 2. 更新要件に関わる規約の改正について

##### (1) 改正項目

規約・細則	現行	改正後
運営規約 第 2 条	日本磁気共鳴医学会、(社) 日本医学放射線学会、放射線科専門医会・医会、(社) 日本放射線技術学会、(社) 日本放射線技師会、(社) 日本臨床衛生検査技師会、(社) 日本医用画像システム工業会	(一社) 日本磁気共鳴医学会、(公社) 日本医学放射線学会、(一社) 日本放射線専門医会・医会、(公社) 日本放射線技術学会、(公社) 日本診療放射線技師会、(一社) 日本臨床衛生検査技師会、(一社) 日本画像医療システム工業会
日本磁気共鳴専門技術者更新制度細則 5. 更新方法	(1) 認定後 3 年以降 5 年までの間に指定する MRI 安全管理講習会を受講する。 (2) 収集ポイントを 5 年間で 100 ポイント以上を取得する。 A 群は 60 ポイントを上限とし、 B 群は 40 ポイントを下限とする。	(1) 構成 7 団体のいずれかに継続して在籍している (2) 認定後 3 年以降 5 年までの間に指定する MRI 安全管理講習会を受講する。 (3) 収集ポイントを 5 年間で 100 ポイント以上を取得する。 A 群の制限は設けない。

		B 群は 40 ポイント以上を必須とする。
日本磁気共鳴専門技術者更新制度細則 6. 収集ポイントの詳細	機構主催の教育講演会参加	機構が認めた教育講演会などへの参加
	磁気共鳴医学会参加	磁気共鳴医学会への参加
	機構を構成する団体主催のセミナー参加	機構を構成する団体主催のセミナーなどへの参加
	機構を構成する団体主催の全国大会参加	機構を構成する団体主催の全国大会への参加
	機構を構成する団体主催の地方大会参加	機構を構成する団体主催の地方大会への参加
	機構が認定した研究会の参加	機構が認定した研究会への参加
	機構が認定した関連団体の学術大会	機構が認定した関連団体の学術大会への参加
	但し、機構が主催する全国大会への参加（発表なし）は 5 回を限度とする。	但し、機構を構成する団体主催の全国大会への参加（発表なし）は 5 回を限度とする。
7. ポイントの取得方法	(1) 更新ポイントを取得する個人票は、認定証発行時ならび更新時に発送する。	削除
	(2) 学術研究成果ならびに自己研鑽成果の執筆、研究発表欄（表面）は本人で記載する。 掲載論文ならびに解説記事は、投稿誌、タイトル、掲載号を記載する。 学術研究発表は、大会名、発表タイトル、開催期日を記載する。	(1) 学術研究成果ならびに自己研鑽成果は本人で登録する。 掲載論文ならびに解説記事は、投稿誌、タイトル、掲載号を明らかにする。 学術研究発表は、大会名、発表タイトル、開催期日を明らかにする。
	(8) 機構が主催する教育講演会は、磁気共鳴医学会が主催の基礎講座や入門講座などとする。	(8) 機構が認めた教育講演会などは、磁気共鳴医学会が主催の各種 MR 講座や安全性講演会などとする。
	(9) 参加型自己研鑽成果は、それぞれの会で担当者が機構印を押印する。学術大会では、それぞれの会が定めた所で押印する。出席証明書をその代わりとしてもよい。ただし、運用は各団体の任意とする。	(9) 参加型自己研鑽成果は、出席証明書などを登録する。ただし、運用は各団体の任意とする。機構印は要望があれば発行する。
8. 認定セミナー	(2), (3)	削除
9. 認定研究会	(2) 申請は、研究会名、代表者名（1 名）、世話人（数名）、年間の開催回数、開催場所、平均参加者数を	(2) 申請は、研究会名、代表者名（1 名）、世話人（数名）、管理者（数名）、年間の開催回数、開催場所、平均参加者

	記載して認定機構事務局に申し込む。	数を記載して認定機構事務局に申し込む。
	(4) 代表者は機構印を管理し、個人票の提示者に出席証明として押印する。	(4) 代表者は管理者を指名し、管理者が研究会の参加者などを管理する。
認定研究会審査基準 細則 8. その他	(1) 理事会の承認を経て、申請を受けた研究会に「機構印」を発行する。 (2) 代表者は機構印を管理し、個人票の提示者に出席証明として押印する。	(1) 理事会の承認を経て、申請を受けた研究会を認定する。 (2) 代表者および管理者は参加者を管理する。

(2) その他

構成団体が主催する学術大会での講師・パネリストなどのポイント従来通り付与しない。

### 3. 更新ポイントに関わるイベントのポイントの統一・整理について

(1) 統一・改正項目

主催	イベント名	現行ポイント	改正ポイント
JSMRM (構成団体)	MR 入門/基礎/実践・先端 講座	20	20
JSMRM (構成団体)	安全性講演会	10	20
JSMRM (構成団体)	安全性講習 (検査管理認証用)	10	10
JMRTS	MR 医療安全セミナー	10	10
JMRTS	更新のための MR 安全管理講習会	10	10
JMRTS	肝 MRE 撮像技術講習会		10

(2) その他

JSMRM の安全性講演会を検査認証用安全性講習と区別して 20 ポイントを付与する。

JSMRM の安全性講演会、検査認証用安全性講習、JMRTS の MR 医療安全セミナーを専門技術者更新のための MRI 安全管理講習会として受講する場合はポイントを付与しない。

### 4. MR 肝エラストグラフィ講習会について

(1) 実施状況

- 1) 開催日時 2023 年 2 月 23 日 (木・祝)
- 2) 開催場所 東京都立大学荒川キャンパス 図書館棟 2 階 MRI 室
- 3) 参加者数 16 人 (参加申込 36 人から選定)
- 4) スタッフ 6 人 (学生 1 人を含む)

(2) プログラム

- |             |    |                 |             |
|-------------|----|-----------------|-------------|
| 10:00~10:45 | 講義 | MR エラストグラフィの基礎  | 沼野智一 (都立大学) |
| 11:00~12:00 | 実習 | ファントムを対象にした基礎実験 | 沼野智一 (都立大学) |

- 13:00～13:45 講義 肝エラストグラフィの基礎 伊東大輝（慶應大学）  
14:00～15:30 実習 肝 MRE 撮像実習 秦博文（北里大学） 田邊頌章（横浜市民病院）  
福澤圭（虎ノ門病院） 岡大夢（都立大学学生）  
MRE 画像処理実習 沼野智一、伊東大輝  
15:30～16:00 講義・実習 MRE 画像処理 伊東大輝（慶應大学）  
16:00～16:15 質疑・応答

(3) 反響

- ・参加者は本講習会を概ね満足している。
- ・参加者全員が撮像実習に直接的に関わることが困難であった。
- ・少人数制での実施が望ましいかもしれない（6名×2班？）。
- ・今回の実習内容は「盛り過ぎ感」があった。今後はスリム化（焦点を絞る）が必要。
- ・エラストグラムの ROI 設定に関する実習は思った以上に好評だった。

(4) 課題

- ・講習会への参加希望者はモチベーションが高い方なのでバイアスがかかっている。この条件下においても参加者間で肝 MRE に関する知識量の差が思ったよりも大きい。
- ・パッシブドライバの固定が重要であることを再認識した。
- ・パッシブドライバを強く巻くことの定量化が図れないか（圧力計などで測定）。

(5) 今後の予定

- ・都立大は年に2回程度であれば今後も実施可能（8月&2月）。
- ・次回開催予定 2023年8月 基本的に今回のスタッフにお願いし同規模で開催する。
- ・参加費：3000円→5000円に
- ・次回募集時には、「受講生の選考に当たっては、専門技術者認定取得者の有無、MR 肝エラストグラフィ加算の申請の有無、地域性などを考慮します」と記載し、申込者の選定にあたってトラブルが生じないように主催者側の意向を伝える。
- ・吉満先生に今回の開催報告と今後の計画について報告する。

## 5. JART の特例資格について

(1) 現在準備をしている新生涯システムでの特例資格

クリニカルラダー2以上取得+基礎技術講習「MRI」

（現状準備が整っていないので、まだ運用できていない）

(2) 2023年度の特例資格

2022年度の受験資格と同様で従来とおりとする。

(3) 今後の特例資格

クリニカルラダーはジェネラリストの育成を目的としている。

クリニカルラダー2はハードルが高いうえに、5年間は受験資格が得られない。

クリニカルラダー1はハードルが低い、適切なレベルを検討する。

## 6. 次年度事業計画

(1) 第19回磁気共鳴専門技術者認定試験

開催期日：2023年10月末

会場：東京と大阪の2会場開催とする 東京会場は東京都立大学を検討する。

試験案内の広報：会場が確保でき次第

試験問題作成委員会：編成時期と運営

(2) 第14回 MRI 医療安全セミナー

昨年同様ハイブリッド開催とする（機構の zoom を利用）。

12月の第1週目 土、日開催 日曜日は確認テスト

可能であれば羽田からのアクセスも良い品川ビジョンセンターを使用する。

内容を半分に減らして1コマの時間にディスカッションを含めて多くとる

今年度案 1) MRI の医療安全(総論)

2) JIRA から

3) 体内金属の対応

4) 体外装着品の対応

5) 心臓植え込み型電氣的デバイスの対応 内容をもう少し検討する。

(3) 第2回・第3回 MR 肝エラストグラフィ講習会

8月と2月に開催する。

受講者は磁気共鳴専門技術者を優先する。

(4) その他 新規事業

1) Webinar 試験運用

現状は問題なく運営ができています。

課題 参加者の結果はその日のうちに出力する必要がある？

権限の交代について問題点がある（翌日 12:00 が望ましいか？）

研究会の参加ポイントの登録方法変更

※ できるだけ早期に一般開放できるようにする。

2) 2023年4月1日から研究会の参加ポイントの登録方法を【認定者が登録】から

⇒【研究会主催者が登録】に変更する。

主催者側には2022年12月28日に ZOOM で説明会を開催し、その後オンデマンド配信で通知した。

2023年2月28日現在、研究会管理者を未登録の研究会

旭川 MRI 研究会、岩手 MRI 研究会、新潟 MR 画像研究会、山梨 Bodyimaging 研究会、山梨頭頸部神経画像研究会、東京 MRI 研究会、茨城 MRI 情報交換会、MRI tec forum、富山 MR 研究会、心臓血管 MR 画像研究会、MR 撮像技術研究会、徳島 MRI 研究会、沖縄県 MRI 研究会 の13研究会。

上記の研究会にはホームページを通じて通知する。

(5) 2023年度・2024年度の役員について

現理事の任期が2022年度総会（2023年6月下旬）まで

(6) 2022年度総会と2023年第1回理事会の開催日について

5月末に新理事の皆さんに日程調整のお伺いをする。

以上